



みゆき

小松市立御幸中学校

学校だより

NO. 16

令和2年10月13日

文責：校長 河南光昭

生憎の天気でしたが・・・

10月8日に3年生は、校外学習のために能登方面に出かけました。生憎の小雨日和で、10月にしてはかなり肌寒い日になりました。この校外学習は、中止となった修学旅行の代替です。3年生にとってみれば、ある意味、中学校生活で最大の思い出となる行事を失ってしまったのです。コロナ禍にあって、県外へも、泊をとまなう旅行もできず、行先も一度は入ったことがあるであろう、羽咋コスモアイルやのとじま水族館でした。途中、七尾の能登食彩市場で昼食を



摂ることになっていました。修学旅行の中止で開催を半ばあきらめかけていた人が多かった旅行ですが、このような形でも「できただけよかった」という声も聞かれました。今回の旅行は、「Go to トラベル」を利用して行けることになったので、若干割安になっています。

出発式の挨拶で私は、このような形になって申し訳ないということをお詫言いました。3年生たちを前にお詫言しました。ですが、公共のマナーと集団行動のルールを守る限り、精一杯楽しんできてほしい、思い出をたくさん作ってほしいと伝えました。実際に旅行というのは、目的地や行先も大切な要素ですが、「だれと」行くのかも大事なエレメントです。3年生のこのメンバーで、3年生である今この時に、普段の学校を離れ、共に旅するということにも大きな意味があると思います。



翌日の感想文では、とある男子がコスモアイルの見聞を通じて『人類は宇宙に行ってからまだ50年ぐらしか経っていないのに、もう多くの星や銀河を見つけていたのが、人間の科学力はとてもすごいと思ったし、自分たちも数十年すれば宇宙に行くことができるかもしれない。』と宇宙に思いを馳せています。また、とある女子は『(のとじま水族館で家族にお土産を選んだが) 妹が、買ったお土産を喜んでくれたことがとても嬉し



かった。仲の良い友達と笑ったり、驚いたりした一日が私の大切な思い出になった。企画してくれた方々、本当にありがとうございました。』と素敵な思い出ができた喜びと感謝の心を綴ってくれています。

